

第23回体育大会 スローガン『百戦必笑～全力で挑め～』

校長 山川 毅

本校第23回体育大会は、2回の雨天順延を経て、6月4日（水）に実施されました。先に実施された予行練習は、今となっては悔しいほどの好天でしたが、その予行練習開始に先立ち、各学級の応援旗が披露されました。どのクラスの旗も完成度が高く個性溢れた作品でしたが、さらに感心したことは、代表生徒が語ったその旗に込めた思いです。とても深みがあり、生徒たちの体育大会を成功させたいという強い気持ちを感じ取ることができました。

開会式において、私は生徒たちに2つの話をしました。1つは「全力で取り組む」ことを要求しました。生徒がもっている力は一人ひとり違います。足が速い生徒もいれば、走ることが苦手な生徒もいます。運動が得意な生徒もいれば、運動が苦手な生徒もいます。運悪く、けがをしてしまって、競技に参加できなかった生徒もいました。そんな一人ひとり異なる自分の力を仲間の為に発揮することが重要であり、また運動が苦手な生徒も充実感が得られる行事にして欲しいと思ったからです。もう1つは、「勝ち負けにこだわる」ことを要求しました。勝ち負けにこだわることは、全力を出すための手段であり、各学級が団結するための手段だからです。

そして、4日遅れの体育大会が始まりました。開会式では、規律正しくきびきびと動き、準備運動もしっかり取り組み、だらだらと手を抜く生徒は1人もいませんでした。競技が始まると、個人種目は自分ももっている力を精一杯発揮し、学年種目等の団体種目は協力してみんなの力を結集する姿が見られ、大変清々しかったです。また、実行委員をはじめ、各係の仕事を責任もって取り組んでいました。自分たちの大切な行事を自分たちで成功させようという気持ちが感じられました。開会式で述べた私の2つの要求を生徒たちは見事に体現してくれました。この姿は、本番だけ見せたわけではなく、毎回の練習、予行練習、前日準備そして当日の片付け等の随所に見られました。

私が特に嬉しかったことは、応援です。一人ひとりの選手が全力で競技に参加する、だからこそ全力で応援する、応援されるから更に頑張る、そんな相乗効果と言える場面が多々見られました。仲間を励ます応援、相手を称える応援、半日を通して応援が途切れることはありませんでした。しかもこの応援は、「この場面は応援しなければいけない」と頭で考えて行ったものではなく、生徒たちの素直な内面から自然と沸き起こったものであり、とても温かく感じられました。閉会式において、「素晴らしい体育大会をありがとう」と伝えました。素直にこの言葉が浮かんできました。私にとって、初めての鑓水中学校の体育大会、実に爽やかな1日となりました。

最後になりましたが、御参観くださった保護者のみなさま、生徒たちへの飲料水の配布、受付、警備等でお手伝い頂いたPTA役員の方々のみなさま、どうもありがとうございました。



体育大会

保健体育科を中心とした学習の成果を披露、主体的に活動する力・粘り強く取り組む態度の育成



6月4日（水）体育大会を実施しました。今年の体育大会のスローガンは「百戦必笑～全力で挑め～」です。当日だけでなく、体育大会の取組全体を通して、お互いが協力し、行事を成功させるとともに、たくさんの成長が見られました。

多くの保護者の方や地域の皆様に御来校いただくとともに、温かいご声援をいただきましたことに感謝申し上げます。ありがとうございました。

【体育大会実行委員長の言葉】

今回の体育大会は、勝ち負けだけでなく誰一人として悔いを残さずに笑って終わってほしいという願いを込めてスローガンを決定しました。スローガンは「百戦必笑～全力で挑め～」です。「百戦必笑」にはどんな戦いのあとでも必ず笑顔になろうという意味で「勝」の字を「笑う」という字にしました。

体育大会当日は、全校生徒が全力で競技に挑むのはもちろん、係の仕事や応援も全力でする姿を見て心が動きました。

実行委員長として、本気で思いを伝えれば集団は応えてくれるのだと学びました。今後、集団の先頭に立って物事を行うときには、今回学んだことを活かして何事にも本気で取り組んで行きたいです。



「非認知能力の表」を使って子育てをやってみた！

非認知能力の育成

先日、「2 学年だより」で紹介した、鍾水中学校の教員の実践への反響がありましたので、学校だよりでもお伝えします。

5 月 24 日（土）息子（中 1）の体育大会でした。『非認知能力の表』は中 1 には難しい」とある保護者から言われたこともあり、自分の息子で「非認知能力の表」とそれを活用しての対話が、どう作用するのか実験してみました。ちなみに足首の骨折（リハビリ中）で、競技には参加しませんでした。

息子の目標	息子の振り返り
①競技に出ない分、人よりも多く用具を、何回も準備する（忍耐力）	自分の当番が終わっても、何度も友達の手伝ったり、自分の休憩時間にも手伝ったりした。
②相手の気持ちを考えて、自分の当番が終わっても、つらそうな人を手伝う（敬意・尊重）	相手が忙しいことを考えて、相手がまだ仕事が終わっていないときや休憩時間にも手伝いに行った。

個人的には、競技で頑張ったり、優勝したりするより意味があったように思います。

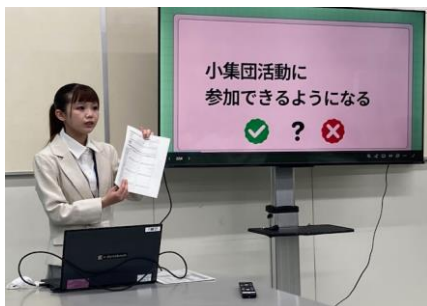
保護者の方の反響の一部を紹介します。

非認知能力の実践、いいですね。目標も測定可能だと思いました。このように具体例を示してもらえると、保護者も分かりやすいですね。素晴らしいのは、保護者の声を聞いて実際に試した先生がいる事ですね。また、その生徒にとっては、体育大会の競技に参加できなかったのは残念ですが、では自分が置かれた立場で何が出来るのか、具体的目標を立てて振り返ってみたというのは、今後の人生の糧になると思います。

6 月 3 日（火）の「未来フowardタイム」で、体育大会の振り返りをしました。ぜひ御家庭で「非認知能力」について話題にしてみてください。

特別支援教育 校内研修会

個に応じた指導・特別支援教育の充実



特別支援教育「個別指導計画について」の校内研修を実施しました。講師は昨年度、鍾水中学校で特別支援教室巡回指導員として指導していただいた近藤教諭（八王子市立上柚木中学校）にお願いしました。

個別指導計画の目標は具体性がないといけないうこと、目標と手立てと評価は一貫性がなければいけないことを昨年度の経

験（鍾水中学校の副校長に個別指導計画を起案しても、何度も修正されたこと等）から分かりやすく教えていただきました。参加した教員は「多くの学びがありました。目標を設定する際に具体性が必要であること、手立て・評価を記載する際に目標との一貫性が必要であることが分かりました。」「先生の昨年度の御経験から教えていただいたので、対象の生徒の姿も浮かび、とても分かりやすかったですし、何より生徒の成長への熱い思いが伝わりました。」と感想を述べていました。